

○平成29年度教育事業

「登山指導者研修会」(H29.7.2(土)～3(日))



【日程】

7/1 (土)		7:00	7:30	12:30	13:00	14:00	15:00	16:10	17:40	18:45	20:00	20:30	22:00
				集合 開会式	①説明 集団登山の 教育的 意義	②講義 活火山の 安全対策	③講義・演習 天候の基礎的 知識	④講義・演習 登山の装備と安全 対策(事故防止)	夕 食	休 憩	⑤講義 リーダーの役割 (準備と対応)	情報交流 入浴・休憩	
7/2 (日)	起床 出発			⑥演習 集団登山の実際 ※少雨決行		まとめ	閉会式	解散					

【プログラム】

- ①説明「集団登山の教育的意義」 ○集団登山の教育的意義について理解する。
講師：国立大雪青少年交流の家 企画指導専門職
- ②講義「活火山の安全対策」 ○活火山の安全対策等について理解する。
- ③講義・演習「天候の基礎的知識」 ○天気図の基本的な見方や荒天時の対応について理解する。
講師：旭川地方気象台
- ④講義「登山の装備と安全対策(事故防止)」 ○集団登山の装備と安全対策について理解する。
- ⑤講義「リーダーの役割」 ○集団登山におけるリーダーの役割と判断について理解する。
講師：日本体育協会公認スポーツ指導員 山岳上級指導員 山名 賢一氏
- ⑥演習「集団登山の実際」 ○集団登山の実際について体験をとおして理解を深める。
講師：日本体育協会公認スポーツ指導員 山岳上級指導員 山名 賢一氏
美瑛山岳会 佐藤 衛一氏



独立行政法人 国立青少年教育振興機構
国立大雪青少年交流の家
 National Taisetsu Youth Friendship Center
 〒071-0235 北海道 上川郡美瑛町白金温泉
 TEL:0166-94-3121 FAX:0166-94-3223
 e-mail taisetsu-suishinshitsu@niye.go.jp
 担当：国枝・和泉・天崎

◆プログラム

- ① 説明「集団登山の教育的意義」・・・(30分)
・データや論文から、集団登山の教育的な効果を示したことで、受講者は集団登山の意義を理解し、今後の活動への意欲や実施の実現性を高めた。
- ② 講義「活火山の安全対策」・・・(60分)
旭川地方気象台 火山防災官 永澤 幸氏
・登山のフィールドの約3割は活火山であることから、安全な登山を進めるために活火山や防災についての理解を深めた。
- ③ 講義「天候の基礎的知識」・・・(60分)
旭川地方気象台 気象情報官 竹内 浩氏
・特に登山と関係した天候についての知識を身につけることで、安全な登山指導をおこなう基礎が養われた。



◆目的

青少年を中心とした集団登山の教育的価値に関する理解を深め、火山や気候等の危機管理に関する知識や技術、指導方法を身につける。

◆参加実績(募集20名)

- 参加29名(うち聴講生2名)
- ・教員 16名(小7、中1、高6、特別支援2)
- ・教育機関 4名(局1、教委1、青少年教育施設2)
- ・一般 9

- ④ 講義・演習「登山の装備と安全対策」(90分)
 日本体育協会公認スポーツ指導員 山名 賢一 氏
 ・登山指導者としての基礎的な装備について学び、道迷いの事故が多いことから、コンパス等を使って自分の位置や目的地への方向を見つけ出す演習を行い、事故を防ぐスキルを高めた。



- ⑤ 講義「リーダーの役割」(75分)
 日本体育協会公認スポーツ指導員 山名 賢一 氏
 ・リーダーは、集団の安全を守るための義務・責任・権限を等しくもつことから、下山などの判断を的確に行い、登山者はそれに従うなどの基礎的な考え方について学び、子供たちを引率する上で必要な知識や事故への対処について理解を深めた。

- ⑥ 演習「集団登山の実際」(450分)
 美瑛山岳会 佐藤 衡一 氏
 ・受講者が3班に分かれ、実際の集団登山を体験した。途中悪天候に見舞われたが、休憩や装備についての指示、判断も体験し、指導する際にどのようにすべきか理解を深めた。

◆成果

- ① 集団登山をどのような目的(体力づくり、自然観察、集団作り)で進めるかにより、様々な教育効果が得られることを理解した。
- ② 悪天候での集団登山を体験をすることで、様々な課題が顕在化し、より安全な集団登山への意識が高まった。
- ③ 講義の内容を踏まえ、実際の集団登山をイメージした演習ができた。

◆参加者の声

□ただ登るだけでなく、指導者がそこで得られる学びを整理して、子供たちに気づきを促していくことが大切と感じた。

□仲間とのかかわりの面でも、個人の成長の面でも教育的価値は高いと実習を通して感じました。

□リーダーの役割が大きいので、リーダーの学びが大事だと感じた。

◆事業運営のツボ・工夫・反省

・教育的意義などの理論的裏付けについて、しっかりおさえることが重要である。

・「指導者養成事業」では、多少の悪条件での演習も指導者の経験値としてプラスである。

・「集団登山の指導者」として対象を絞ることにより、学ぶ内容と参加者の希望が合致した事業となった。



◆事業運営予算	合計	150,408円
講師謝金・旅費	4名	39,300円
消耗品費		67,924円
通信運搬費		36,272円
印刷費		6,912円